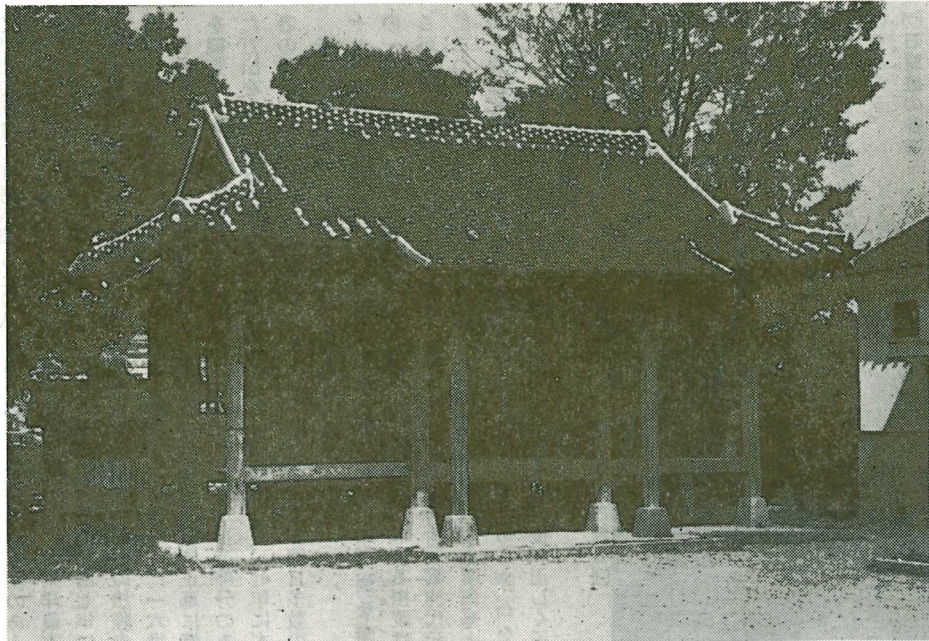


北九州市の文化財を守る会

会報

No.25 53. 10. 15

発行 北九州市の文化財を守る会
北九州市小倉北区内1-1
北九州市教育委員会文化課内
電話 582-2389
印刷 博文堂印刷所
北九州市小倉北区長浜町2番22号
電話 511-1011



枝光八幡宮旧拝殿

枝光に於ける操り人形の歴史は原田準吾氏の「われらの枝光」(昭和十七年)によれば原田準吾氏の祖父元平氏の発案であつたらしい。氏は予てから浄瑠璃を語っていたので、これに合せて人形を廻すことを考えた。はじめは小倉に行き三月・五月に飾る人形の首を十許り買って来て、それに山から切つて来た竹で人形の胴を、手足は木で衣裳は着物の切端を集めて作り浄瑠璃に合せてこの人形を一人で廻すことを工夫した。練習後隣近所の人を集めて見せたところが村の大評判となつたので、之より益・正月の休日や豊年祝などに村の娯楽とされるようになった。
だが一人操りでは満足出来なくなった。そのころ本物の操り人形を鞍手郡宮田村永井鶴の上野本寿平氏が所有して練習することを知り、人形・道具一切を購入し、同氏を師匠として練習を重ね明治二十五年の六月月上旬には一人前の操手となつた。枝光組操り人形は明治二十五年のお盆が初舞台で、場所は殿倉で行われ大評判であつた。忽ち他村からも興業の申込みがあり大いに発展した。かつて文楽座が小倉で興業した時、吉田文五郎丈に涉りをつけ座名も小文楽座を許された。世は昭和となり趣味が映画・ラジオに変わると、明治時代の老人以外の者は浄瑠璃人形など見る人も無いと言ふ世の中となつた。私が子供の頃はよく神社の祭りに奉納されていたが、中止するようになつた年は記憶にない。大阪の文楽座は色々工夫して、戦陣訓などをやつて人気を恢復している。と原田氏は記している。で戦争が苛烈になつた頃ではなからうか。
敗戦後、人形等を入れた行李が保管者の軒先に積上げてあるのを見たのが最後であつた。家庭の事情で売り払つたことを後日知り残念に思つたが、その時は保管者も他界していた。折角、先覚者が苦心して守り立てた芸術が絶えたのは惜しい。(黒野 肇)

枝光の操り人形

催物案内

大宰府展 発掘十周年記念
と き 10月15日(日)~12月25日(月)
9時30分~16時30分(会期中は無休)
と ころ 福岡県筑紫郡太宰府町太郎左近
九州歴史資料館
入場料 無料
主 催 福岡県、福岡県教育委員会、九州歴史資料館
講演会 (時間はいずれも午前10時から)
10月22日(日)
「大宰府研究の歩み」九州歴史資料館長 鏡山 猛
10月29日(日)
「大宰府の発掘調査」九州歴史資料館
技術主査 石松好雄
主任技師 倉住靖彦
11月12日(日)
「大宰府の組織と官制」九州歴史資料館
主任技師 倉住靖彦
11月26日(日)
「我国における官殿・官衙の調査」
—平城宮・藤原宮を中心として—
九州大学教授 横山浩一
12月3日(日)
「韓国における山城の研究」
韓国忠南大学校教授 成 周鐸
12月10日(日)
「古代の建築について」
—政庁建物復元模型を中心として—
九州芸術工科大学教授 沢村 仁
現地説明会
11月3日(金)午前10時(都府楼跡集合)
九州歴史資料館主任技師 横田賢次郎
なお、講師の都合により日程を変更することがあります

大陸・朝鮮文化との接点

対馬の美術 — 古代から近世まで —

と き 10月29日(日)~11月19日(日)
10時~18時(会期中は無休)
と ころ 福岡市中心区天神五丁目2-1
福岡県文化会館
入場料 一般500円 高・大学生300円 小・中学生150円
主 催 福岡県、福岡県教育委員会、福岡県文化会館
講演会
10月29日(日)午前10時
「対馬の風土と信仰」
対馬の自然と文化を守る会会長 永留久恵
10月29日(日)午後1時
「対馬の美術」
奈良国立博物館普及室長 菊竹淳一
11月18日(日)午後1時
「釜山窯と対州窯」
陶磁器研究家 満岡忠成

第25回文化財保護強調週間行事

「文化財映画映写会」

と き 11月7日(火) 若松文化体育館小ホール
11月8日(水) 小倉南市民センター大ホール
時間はいずれも午前10時~11時30分
「土のうた」、「京の風物詩」、「広寿山の美術—北九州の中国文化—」の3本を上映。いずれも16mmカラー30分
主 催 本会、市教委

北九州市指定文化財展

と き 11月1日(水)~11月12日(日)
(11月6日、7日は休館日)
と ころ 北九州市立歴史博物館
開館時間 午前9時40分~午後6時
入 場 料 大人50円、小人30円
市指定文化財のうち、社寺が所有する文化財を初公開。
「銅製鰐口」(小倉北区慈濟寺)
「太刀」(小倉北区到津八幡神社)
「毛抜威胴丸具足」(小笠原忠政着用)ほか2具(小倉北区広寿山福聚寺)
「色絵武者図磁器絵馬」(若松区白山神社)
「黒田二十四騎画像」(24幅)(八幡西区春日神社)
主 催 市 教 委

門司文化祭行事

「大里史跡めぐり」

と き 10月29日(日)小雨決行
雨天の場合は11月3日(金)
集 合 場 所 大里柳公民館
出 発 時 間 午前9時
参 加 料 無 料
探訪順路(徒歩)
①風呂ノ井戸 ②静泰院跡 ③戸ノ上神社 ④柳ノ御所
⑤住吉長崎番所跡より旧街道 ⑥大里駅跡 ⑦仏願寺
⑧八坂神社、大里宿場本陣跡、大里学校跡
⑨久留米屋敷跡、六本松跡 ⑩大専寺 ⑪西生寺(到着午後12時30分予定)西生寺にて休憩し、参考資料を閲覧する
主 催 門司文連、大里文化会

編集だより

◆今年度会費を事務局に持参することが困難な会員の方は、同封の振込用紙をご利用のうえお早めに納入下さい(年間会費)一般会員千円、賛助一口一万円、学校関係千円、一般団体三千円
◆第十五回(中津市)・第十六回(宇佐市)バスによる文化財めぐりに参加の方、記念写真(一枚百八十円)ができています。事務局にお立ち寄り下さい。
◆今回は八幡東支部の担当でした
◆次回の担当は若松支部で、発行日は一月十五日です。

「慶州の文化財保護」に思う

八幡東区 本松 馨

五月にはじめて韓国慶州を訪れ、新羅千年の歴史の跡を尋ね、いく分か知見を広めた。標題はそのまとめとして一旅行者の個人的な感想に過ぎない。

(f)遺跡の発掘……「韓国の正倉院」といわれる雁鴨池は、新羅の三國統一を記念して文武王六十四年につくられた人工池。前回の池堤部の発掘に続いて今度は宮殿址の調査という。一方、真興王の発願から九〇年を要して、善徳女王の六四五年に九重の塔の建立を以て完成された皇龍寺は、新羅第一の巨刹として宮廷に重きをなした。度重なる災火で廃寺となり、以来広大な寺域に礎石のみをとどめていたが、今度の全面発掘で伽藍配置その他で新事実が判明するかも知れない。

前者は公開禁止、後者では見学はできても、当然に発掘地点の立入り、撮影は不許可であった。予想しないことであったが、止むを得ない措置であり、それだけに學術調査にかける韓国文化財当局の心意気にもふれた気もする。やがて調査完了後の段階では、両遺跡共學術報告は勿論のこと、遺跡、遺物も整理復元されて一般公開されるであろう。

(g)古墳公園……その広大さに驚く。市役所前の90号双墳もと入り、その入口にははるか南方の伝味郷王陵側であった。古墳の数も所持した図より多くあつて一々調べると中止した。

西北端の天馬塚は、発掘後内部を観望できるよう分思い切った方法を取ったものである。観望者の長い列が続いていた。その内部入口近くの両側に陳列ケースが設けてあり、主な出土品の一部(ミニチュア)を飾つてあるが、博物館に収蔵のものと同く瓜二つで、一体どちらが本物のなかと思わず判断にとまどう程であつた。

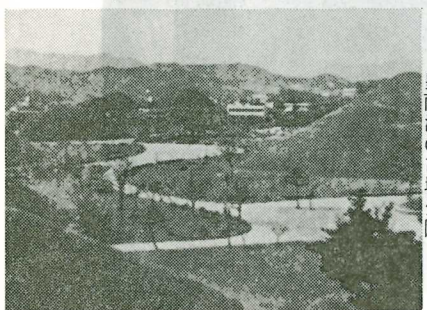
公園内は遊歩道が通じ、どの古墳も整備されていて、古墳に登る不心得者もなく、もし、その様な者がいれば、すぐさま監視員が自転車をとばして注意しに来ると聞いた。ごみなど捨てて観望者もない。小生が見付けて処理したのは、一個の小空籬だけであつた。この点、日本各地の観光地と大違ひである。

(h)石窟庵の参道……下山中に気付いたのだが、四百メートル余の山道はごみ一つ落ちてなく、所によっては、落ち葉を、いた箒目さえ

とどめていた。要所には、民衆の新羅焼の甕がごみ入れに置かれていた。

(i)その他……新羅の三國統一に功績のあつた金履信の墓、統一の基礎を築いた太宗武烈王陵のある西岳一帯は無数のこと、東洋最古の天文台で善徳女王の六四七年に築造された瞻星台「韓国の法隆寺」ともいうべき仏国寺も、一六世紀末の壬辰倭乱で加藤清正軍に焼き払られて以来、石造部分のみをとどめていた同寺も、近年に木造部分が復元されて、連日多数の観光客で賑わっている。

仏国寺より蔚山街道を南下し、吐含山の南麓にある掛陵は、近年にいたり統一新羅第38代元聖王の陵に比定され、金履信墓と同様の十二支神像のある護石を有し、しかもその方位が正しく子



皇南洞の古墳公園

北・午・南を示し陵前百メートルの地点には、文人石、武人石、石獸など計八体の石像があり、新羅王陵中の最高傑作である。

以上のどれもが整備されてあるばかりか、南山西麓の小さな古い王陵、石仏なども同様であつた。曲水の宴のおこなわれた鮑石亭では、知らずに内部に立ち入って石組を調べていたら、入口の監視員に携帯マイクでひどくどなられ、びくくりして立ち退いた。市内路、西洞の古墳巡りでは、親切な郵便配達員(小学時代を香椎で過ごした)に瑞鳳塚址への道を教わるなど……思い出はつきない。

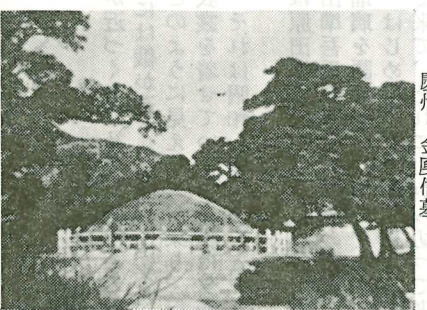
帰国後六月に、再度房総風土記の丘(千葉県)を訪ねた。大型方墳の岩屋古墳をはじめ、無数の小型古墳(前方後円、円、方墳など)の散在する各所に、甲子園高校野球開会式のプラカードによく似た立札を見かけた。それには古墳名ならぬ注意書が次のように誌るされていた。どれも横書き二行である。古墳は昔のお墓です、登らないようにしましょう。……

にも拘らず、同地域の目玉の岩屋方墳に私と行き会つた観光客の一人は、平気でどやどやと頂上へ駆け登つていった。四周を一巡してその背面の見事な三段築成の構成美に見とれた私も、その登り口の立札のある所でどうしようかと迷つた揚句、いに意を決して先客

に準じて二度目の登頂を行つてしまった。何だかあの立札に済まない気がした……

これに反し、韓国慶州ではいずれの古墳地帯でも、古墳に登らないことは立札なしに不文律として大人はおろか、幼児までも守られていることをこの旅で痛感させられた。その根拠が奈辺にあるかは不詳だが、古墳保護の観点にあることは必然であろう。

そこで思うのは、文化財保護は固苦しい関係法規を究めたり、郷土の文化財を調べたり、研究に立ちこち駆けることだけでなく、誰にでも容易にできる、一、古墳に登らない二、保護施設をこわさない三、遺跡や古墳荒しを見付けると、ごみを散らさず、きれいに整美清掃する……など、身近なことから始めるのではなからうか……



慶州・金履信墓

宇佐神宮について

八幡西区 古海 政雄

九月三日(日)初秋というにはやや早い感じのする一日、豊後路の文化財めぐり一行四十三名の仲間に加えていただいた。宇佐市文化財調査委員入学正敏先生の御高説を拝聴しながら、宇佐神宮、大楽寺、東光寺、善光寺と次々に善男善女らしく神仏前に頼いた。本項では紙数の関係で、宇佐神宮について略記して見たい。

皇位継承の神託について
私がかねてから宇佐神宮について、次のような素朴な疑問を抱いていたが、今回入学先生によって一歩深く解きほぐされた想いがする。

奈良の都から遙か僻遠の豊後の地にある宇佐神宮になぜ「皇位継承」の神託を仰がねばならなかつたか。近くの奈良の神々をさしおいて宇佐神宮に神託を仰いだ時代の背景には何があつたのであろうか。それには当時としていろいろな背景が考えられるが、主として次のことが考えられる。

宇佐には、兎狭の神を奉ずる国造兎狭氏が在任し、法鏡寺に辛島氏(唐島氏)、国ぞう寺に大神氏と、それぞれ仏教を奉じた二豪族が勢力を保ち、この三氏が鼎立し



て覇を競つていた。ときあたかも薩摩の国造が隼人族に殺りくされ、奈良朝より兎狭氏にその追討の命が下され、隼人族の乱を鎮定した。以後兎狭氏の勢力が一段と強力になり、これをきっかけとして、辛島氏、大神氏三氏が一体となった神仏混淆の宇佐神宮発展の基盤が出来上つたのである。

また宇佐神宮は、地方守護神としてのあり方から国家守護神としてのあり方に向つていった。全国各地に八幡信仰(八幡大菩薩)が行きわたり、宇佐神宮が全国八幡

宮の総本宮であるものためであらうか。

さらにまた、神宮は九州一円に広大な荘園を領有していた。その荘園より採掘された多量の金銅(田川の採銅所など)は経済的にその勢力を増大させたであろう。宇佐神宮の神威は九州より遠く奈良の都に及んだことは想像に難くないであろう。

奈良大仏建立のおり、宇佐神宮の神輿をかつぎ奈良の都にのぼり、黄金幾万両を奉獻したといわれるのも、この間の事情をよく現わしている。

宇佐神宮と宗像大社について

社史によれば、神代に比売大神(多岐津姫命、市杵島姫命、多紀理姫命)がこの地に降臨されて、宇佐の国造はこの神をまつり、また応神天皇の御神霊で天皇がなくなられてのち欽明天皇の三十二年そしてまた、神功皇后がそれぞれ御示願になつて神龜年間に創立せられたとある。

宗像大社祭神多岐津姫命、市杵島姫命、多紀理姫命と宇佐神宮の比売大神(三女神)は同一神である。古事記によれば、三女神は海北の道中の主として、兎狭島に降臨されたことある。この兎狭島が現在の龜山(現在本殿のある高台)であるか、御許山であるか、はたまた宗像の沖の島であるかは不明

であるが、同じ三女神が宇佐神宮に、そして宗像大社に祭祀されていることは、往時の宇佐と宗像と深い関係にあつたことが想像される。

さてこの三女神が宇佐の地に降臨されたのは、宇佐神宮背後にそびえる御許山といわれている。山頂には巨岩(メンヒル?)があり、今もなお弥生土器の破片が散乱しているという。これは明らかに古代祭祀遺蹟と考えられる。この山は今もなお神体山として山そのものを神としてまつり、山麓に神殿のない拝殿のみの社殿がある。

宗像大社の沖の島の巨岩の上または岩陰で祭祀が行われた古代祭祀遺蹟、また島そのものを神体として祭祀していることと併せ考えると、宇佐と宗像のつながりの深さを想わずにはいられない。

比売大神の神殿なしの古代祭祀が、社殿祭祀となつて、高井の宮(あし一つあがりの宮)に遷り、さらにまた小山田の宮にかわり、現在地に神龜年間に創立されたといふ。

宇佐神宮と神宮寺について

聖武天皇は神宮の造営と共に、神宮弥勒寺を建て弥勒菩薩、薬師如来を本尊とせられたので、この末寺の関係が宇佐や国東半島を中心に六郷満山の堂宇がにつくら

れ、今も富貴寺、真木大堂、竜岩寺の仏など多くの国宝がのこっている。

さて、この神宮寺としての弥勒寺跡は、現在神宮庁舎上隣接地に南北百五十メートル、東西九十五メートルの広大な敷地として残っている。寄瀨川にかかった櫛形唐破風の屋根をもつ珍らしい呉橋を渡り、左右に金剛力士像を配した西大門(現存しないが、金剛力士像は宝物館に保存)をくぐれば、右手に講堂、中道を距てて鐘楼、僧房など、さらにその奥に(現在の相撲場付近)、高さ二十メートルに及ぶ三重の塔がそびえる薬師寺型式の伽藍が配置されていた。今もなお、夏草の間に往時の布目瓦や、蓮弁を型どつた丸瓦などが散在している。傾いた講堂の礎石、心柱の跡を影り残す三重の塔の礎石などが、当時の神宮弥勒寺の壮大さを偲ばせる。時代によっては宇佐本宮より盛大であつたともあろう。あるときは民衆に数々の施療を行い、薬草を与え、食を与え、仏の道を、神の道とともに施していったであろう。

なお、文中少々誤りがあると思ふが、これは私が入学先生からの聞き違いか、または私の誤つた解釈によるものであり、皆様方の御批評、御指導をお願いします。

新 会 員 (個 人)

Table with 5 columns: 氏名, 郵便番号, 区名欄, 住所, 電話. Lists new individual members with their contact information.

新 会 員 (団 体)

Table with 5 columns: 団体会員名, 郵便番号, 区名欄, 所在地, 電話. Lists new corporate members with their contact information.

住所・電話変更

Table with 5 columns: 氏名, 郵便番号, 区名欄, 住所, 電話. Lists members who have changed their address or phone number.

京築地方遺跡巡り報告

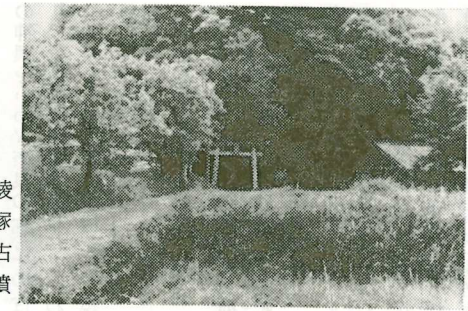
八幡大学考古学研究会 梶原慎二

私共八幡大学考古学研究会は、去る五月七日新入生歓迎を兼ねて遺跡巡りを行いました。目的は行橋市から京都郡にかけて所在する古墳で、見学コースは、行橋駅前よりバスで延永に下車し、ピノクマ古墳を見学、あとは徒歩により八雷神社古墳、庄屋塚、橋塚古墳、綾塚古墳、一ノ塚古墳、扇八幡神社古墳の順に見学しました。そこで今回の遺跡巡りにおける遺跡の現状を報告したいと思います。

現状は低い土盛りで高塚を築いているが、発掘されているためその形状は後に盛られたと思われる。盛土の一角よりのぞき穴がある。

役員紹介 このたび、若松支部の役員増加に伴い、次の方が新しく理事に選ばれました。理事 若松区 伊藤頼行

京都郡勝山町上黒田に所在、前方後円墳であるが、周囲は民家に囲まれているためその形状は確認し難い。横穴式石室が民家裏手に開口しており、竹林の中にある。墳形がわからないため、石室を見つけない限り古墳であることが確認できないような状態である。石人石馬調査会が石室の調査を行った時に、前室より須恵器の坏が出土した。



綾塚古墳

京都郡勝山町中黒田に所在、後期円墳で周濠を持ち、横穴式石室の玄室には家形石棺が納められている。この古墳も巨大な石材を使用していること有名である。女帝窟とも呼ばれ神社として信仰されているが、石室内の家形石棺の前に祭壇が置かれていることより信仰の対象は石棺にあるように思われる。

扇八幡神社古墳 京都郡勝山町大宇賀田に所在、周濠を有する後期前方後円墳で未発掘である。後期古墳の形状の特徴がよく分かる。周濠は一部削られているようだがよく残されている。以上見学順にその概略と現状を簡単に述べましたが、遺跡の現状とその印象は実際に見なければ分かるものではありません。百聞は一見にしかずというように、ぜひこれらの古墳を見学して頂きたく、また、その報告やアドバイスをなどをお寄せ下さいれば幸いです。

53年度会員数及び会費納入状況 10月6日現在

Table showing membership statistics for the 53rd year, including columns for category (種別), district (区別), 52nd year membership, 53rd year membership, total membership, and payment status (納入, 未納).

石室内は清掃されており、石室開口側の裏手に上がると円墳であることが確認できる。一ノ塚古墳 盛土は全くなく石材のみが露出しており、横穴式石室を有していることがわかる。この古墳も巨石を用いており、規模の大きな古墳であったと思われる。民家の裏庭の一部のようであり以前はゴミが捨てられていたが、今回はある程度清掃されているようであった。勝山公民館の前の庭園は、この古墳の封土や石室の石材の一部を用いて造られたといわれている。